

# 人づくり・地域づくりへ 岩高80年～100年に向け始動



岩村田高等学校  
同窓会  
発行人 鈴木公人  
久市岩村田1248-1  
佐久市岩村田高等学校内  
TEL 0267-67-2439(代)

印刷 (株) 中信社  
題字は旧中第21回卒 上嶋桂風氏

## いあいさし

会長 鈴木公人



母校岩村田高校は新たに西澤興一先生(県教委高校教育課より)の学校長就任を頂き、八二七名の在校生は澆漓たる気概に満ちて新年度にスタートいたしました。これは喜びであり期待であります。

会員各位には広く各界に亘ってご活躍の程を拝察申し、心からお慶びを申し上げます。

## いあいさし

学校長 西澤興一



新緑が輝き、風薫る季節となりました。同窓生の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年、創立八十周年記念事業並びに記念式典を実施したとき、校内設備が充実するとともに、在校生は学校

で決定された諸事業の中核に位置付けられたサテライト授業システムは、即四月より活用が開始され、その効用は今春卒業生の進路結果に目覚ましい成果として報告されました。これは大変な喜びであり、引続いて一層の向上に期待を寄せて参りたく思っております。外に教育環境充実面では幾多の実施内容がありますが、ここでは略させていただきます。

さて、先年の母校創立八十周年記念の諸事業遂行に際しましては、深いご理解のもと、多大なご支援ご協力をお願いいたしましたことに、先ず厚く御礼を申し上げます。お陰様で、諸計画は順調に進捗し、只今は記念誌の編集に担当委員会を中心に鋭意努力中であり、ここに至りません。少々顧みさせていただきます。昨年二月二十九日、四百名を超す会員のご参集のもと開催した記念事業実行委員会での、溢れる熱意の集約

次に「地域と共にある岩高」として催した世界的ソプラノ歌手佐藤美枝子先生による大音楽会、そして、国際的オーロラ研究の第一人者赤祖父俊一先生の記念講演会、又同窓生による記

生としての誇りを持ち、将来の希望に向かってスタートいたしました。

職員につきましては、人事異動により私を含めて十名の新職員が新たにお世話になることになりました。旧制岩村田中学校からの伝統ある高等学校に再び勤務できますことは、大変光栄に思っております。同窓生の皆様は、同窓生としての誇りを持ち、将来の希望に向かってスタートいたしました。

念作品展等、地域からの友好的な反響は必ずや今後に生きる力となるものと思っております。

晴天に恵まれた記念式典では、同窓会・学校、PTA三者の共催の姿を目のあたりにした在校生は自分達の幸せな存在感を改めて自覚し印象をも深めたようでありました。

この様に活動の一端を顧みるとき、それはいち早く募金活動に立ちあがり、ご参加くださった多くの会員のご熱意のたまものであり、その折々には連帯感と母校愛に基づく尊い心情に強い感動を抱かせていただいたことも度々でした。同時に、かくも会員相互の確固たる意識とネットワークを築きあげて来られた諸先輩の活動に敬意を表すると共に、私共は更なる百周年を念頭に今より努力して参らなくてはならないと思っております。只今であります。

急浮上している公立高校の再編を含む改革プラン等をはじめ、種々即応を要す

さて現在は、産業構造の変化、科学技術の急速な進展、国際化、情報化など社会環境の急激な変化がございます。高等学校でも、学校の特徴づくり、学力向上への努力、学校評議員制などさまざまな改革が進められていますが、基本は地域と一体となった学校づくりであります。すでに義務教育では、児童生徒が同一地域から通学するため、地域と共に学校運営が為されてきました。中学校卒業者の九八パーセントが高校へ進学する時代を迎え、本校へもほぼ佐久地域からの生

る諸事情が存在する現在にあって、六月二十五日の総会は多様な意味をもつ大切な機会と思っております。どうぞ多数ご参加くださることを今よりお待ち申し上げます。

最後に平成十七年度も宜しくお力添えの程をお願い申し、各位の愈々のご盛隆と、母校の発展を祈念申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。



徒が通学しております。また、少子化の時代を迎え、大学へ進学した生徒の多くは、卒業後この佐久地域に生活の基盤を築かれることが想定されます。

このような状況から、本校の教育には、地域との連携を強めたいと考えております。具体的には、社会で活躍の方々に来校いただき、講義や講演をお願いしたいこと、企業や事業者の皆様には、就業体験のご指導をお願いしたいこと、ご健勝とご発展をご祈念申し上げます。

### 高校改革プランについて

長野県教育委員会では、少子化や財政状況の変化なども含め、青少年を取りまく社会的な環境が大きく変化していることから、高校教育の諸課題に対応するため、昨年一月に「長野県高等学校改革プラン検討委員会」を立ち上げました。検討委員会のメンバーは、大学の先生はじめ県内の企業経営者など八名で構成されました。県教育委員会は検討委員会に、「多様化する生徒の希望に応えることができる魅力ある高校づくり」と「生徒数の減少や四通学区制の実施等に対応した高等学校の適正な規模及び配置」について諮問を致しました。

検討委員会では、パブリックコメントを求めながら、計十四回の委員会を開催してまいりました。昨八月には「中間まとめ」を公表して地域や教職員から意見を求めるとともに、市町村長、保護者、民間企業者及び教職員の代表からなる「長野県高等学校改革プラン懇話会」を組織して意見を求め、今年三月には「最終報告」書が提出されました。

報告書の主な内容は、魅力ある高校づくりを進めるとともに、現在の県立高等学校の総数を八十九校から全日制高校七十五校と多部制・単位制高校四校へと再編成すること、総合学科高校を、四通学区にそれぞれ一校以上を設置すること、でありました。

これを推進するため県教育委員会は、通学区ごとに地域関係者、経済界などの有識者、学校関係者からなる審議機関「改革プラン推進委員会」をつくり、地域の実状に即して地域で検討することとしました。第二通学区(上小・佐久地区)では、現在の県立高校十七校を全日制高校十五校と多部制・単位制高校一校とす

る削減目標も示しました。本校では五月二十四日、同窓会より鈴木会長はじめ副会長の皆様、PTAの理事の方々にお集まりいただき、「改革プランについて」話し合いがもたれました。学校長からいままでの概要を説明し、参加の皆様からご意見を戴きました。その内容は、①生徒の減少はいたしかたないが、地域の教育の将来をつくることとなるので、関心を持って対応したい。②高校再編成で、今の体制が大きく変わる可能性を持っている。③八十周年記念行事の募金に市町村長や工場等へ向うと、卒業生の評価はたいへん高く、地域に根ざしていると感じた。今後も地域の担い手を育てていく必要がある。など多くのご意見を戴きました。

これから、岩村田高校だけでなく地域の教育にも配慮し、改革プランの動向をみながら、本校の在り方について話し合いを続けることになりました。

(事務局長 依田)

平成17年度の定期総会を下記のとおり開催します。同窓生多数、特に若い皆様のご参加をお待ちします。

## 定期総会 講演会 懇親会の通知

- 日時 6月25日(土) 午後1時より
- 場所 岩高会館
- 演題 明治知識人の予言
- 講師 国学院大学名誉教授 荻久保泰幸氏 (旧中21回卒)

国学院大学文学部長(学長代理)等を経て、現在同大学名誉教授。著書「現代日本文学研究」「新ことわざ辞典」等多数。ラジオ・テレビの高校講座、大学受験講座等に出演多岐。

聴講無料。ご家族、近所の方を誘って下さい。

懇親会-総会終了後、佐久セントラルホテルにて。会費-4,000円 当日ご持参下さい。

卒業生シリーズ③

長洲先生像 再建の思い出

第四代同窓会長 出澤 敏男 (旧中7回)



わが岩村田高校には、初代校長の長洲佐藤寅太郎先生が直接生徒との交流の中で提唱された「社会に信頼されるに足る人物たれ」という立派な教育哲学が遺されている。これは実に時代を超えたわが校の建学の精神であり、長洲イズムとして岩高生の人間形成に今もって脈々と息づいている。

この長洲先生の銅像は、戦前の岩村田中学校の創立10周年記念事業として昭和11(一九三六)年に完成したが、大東亜(太平洋)戦争の急迫により国に献納されてしまった。

戦後になって、長洲先生への思慕の情もだし難く、昭和30年11月にレリーフ像が残った台座の中心に設置された。ところがこのレリーフ像の制作が、今にして思えば、どうせなら立像を再建しよう」という意欲に火を点ける動機になって

そのあと機会ある毎に「立像再建」が同窓生の合言葉になってきた。そして、昭和59年10月には待望久しき校舎の全面改築が実施されて面目一新したが、新校舎の一隅にかつての長洲先生のお姿があった台座がぼつねんとしている状況を見て、同窓生の多くは新校舎になっても立像のないのはやはり画竜点睛を欠く思いである、と異口同音の感慨であった。

ここに至り、長洲先生の古今不変の建学の精神を想起し、この校風を顕彰して、いよいよ我が母校の発展に資さんとして、平成元(一九八九)年8月19日の同窓会定期総会に於て「長洲先生立像再建」が議決され、直ちに実行に着手した。

最初にこの銅像を手掛けたのは、当時帝展審査員だった齊藤素蔵先生で、銅像の頭部の原型が現存しており、この著作権の取り扱いが依然問題として浮上してきた。このことについて

専門家の東京の宮田量司弁護士に相談したところ、若しこの著作権のことを正式にクリアしておかないと後日不慮のトラブルに巻き込まれるおそれがある、というご宣託だった。齊藤素蔵先生は既に鬼籍の人であり、そのご遺族の行方は全く不明である。大きな壁に遭遇して立ち往生の危機に曝されて、私は日夜苦悩の日々が続いた。

ところがここに思わぬ救いの神とも思われる人物が現れた。実は、後日の参考にもと、新聞広告欄でみた「立休写真像株式会社」(以下は会社という)に連絡し

てみたところ、直ぐ宮本氏の訪問を受けた。何とこの会社が齊藤素蔵先生とは昵懇の間柄でしかも齊藤先生の只一人のご遺族であることが長女の齊藤弥栄子さんが逗留先の米国から近く一時帰国されるので、著作権の一件は責任をもつと確約した。その後度々訪問したり情報等で調査したところ、この

会社の内容は心配ないこと、また直接の制作には齊藤先生とは古い友人で日展参与の宮地寅彦先生を斡旋する等々の話に安堵の胸をなで下した。齊藤弥栄子さんから著作権許可のサイン(現存)を入手した段階で、10月16日にこの会社と契約を取り交わした。かくして後顧の憂いはなくなつたので、一気に呵成に本格的の準備作業が軌道に乗り、おかげさまで平成2年10月21日に悲願の立像再建の除幕式を挙

行できたのである。今ふり返つてみると、8月19日の総会から10月16日の契約まで僅か2ヶ月間で、さしもの難問題が解決できたのは、長洲先生の御霊のお加護があったものと信じている。

第十八回 卒業生同級会

小林 太郎

浅間山麓が見事な錦繡に飾られた昨年十一月十日、小諸市大久保引温泉こもろ(国民年金健康保養センター)を会場に、岩中第十八回卒業生の同級会が開かれた。

卒業以来五十九年という歳月は長く、薫陶を受けた恩師や、共に励んだ友人も多く鬼籍の人となった。校門を去つて以来の再会という人もあり、受付では懐かしい顔に逢つた喜びの声が絶え間なく聞こえて来た。高齢にも拘わらず豊饒たる容姿で御出席頂いた北川先生、戸塚先生の恩師として、また人生の先輩としての教訓に富んだご挨拶に深い感銘を受け懇親会が和やかに始まった。

事務局で作つた同級会資料の最初に掲げられた、昭和十六年三月二十八日付の中信毎日新聞に載せられた岩中合格者名簿には、よくこの新聞が保存されていたものと一同ビックリ。新入生全員が主任先生を

囲んでの写真を見ながら入学時の話題にしきり花が咲いた。写真のタイトル「さすが新入生」...。童顔の新入生二〇八名が定規で計つた様にキチンと整列して撮影されているのも、当時の時代背景を物語っているようである。



卒業記念写真は昭和二十年三月小諸航機動員中のもの。戦闘帽に巻ゲートル下駄ばきで小諸懐古園馬場の石垣を登つて、小林直衛校長先生、美齊津・北川両先生を中心として撮影したものの入学の年と卒業の年を記憶されている或る程度の年輩の皆さんならば、岩中第十八回卒業生が学生生活をどの様に過ごしたか、この八路に近い年令迄それぞれが如何様に人生を過ごして来たかを想像して頂くのには多言を要しないと思う。母校は創立八十周年を迎え、鈴木公人記念事業実行委員長のもと多くの記念事業が行われ、同級生一同もその誇りと喜びを共にしているところである。

同級会だより

一一美会便り

佐藤 いく

平成十六年四月二十二日小諸駅集合、蜂天国を見学してから保養センターもろへ。上田からの三人も見えていて、早速浅間山をバックにして十九人で写真を撮りました。間際になって自分や家族の病気の為欠席の方が三人あり残念でした。

部屋に入りお茶を頂きながら岩高八十周年記念事業の寄附について話し合い、考え中、応分の寄附という意見でした。今年は皆さんが喜寿の年に当りますので御祝の心をこめて紅白の鳥の子餅を差上げました。久枝さんが皆さんに踊りを教えて下さり大いに盛り上がりました。お土産にあい子さんの焼いた花瓶、節子さんの

藍染ハンカチを袋に入れ校歌を歌い乍らストップをかけては取つてゆきましたのでとても賑やかでした。翌日は、懐古園の花見をして草笛で昼食後来年を楽しみにしてお別れしました。来年は関口悦子さん・森泉竹子さんがお当番して下さいます。

秋は趣を変えて九月十五日、車を東に向けて浅草観音様で東京方面の人と落ちい、お参りをした後で三三五五境内を散歩したら江戸

時代に力較べをした大きな石に「六十貫誰某之を持つ」と、彫つた石が幾つもあり、無声映画の時代の弁士の名を沢山彫つた碑に大辻司郎や徳川夢聲の名前もあつてなつかしく思いました。午後は、新宿末広亭で落語や曲芸を楽しみ、五反田のゆうぼうとに泊つてお料理や東京の夜景を楽しみました。

十六日は鎌倉へ向い、円覚寺、東慶寺、八幡宮、鎌倉大仏、長谷寺の観音様と西に向い、勝沼のぶどう薬



- 師の在す大善寺、心頭を滅却すれば火もまた寒しの恵林寺、山梨伝統物産センター見学、東京組は此所から電車で帰り、バスは一路信州を目指し野辺山で買物して無事夕方岩村田帰着、楽しく実りの多い旅でした。戦時中動員や挺身隊などで修学旅行に行けなかつた私達が喜寿を祝い、旅行を重ねられることは偏に日本が平和であるお陰と一同深く心に刻んだことでした。一行十一名でした。
- 旭日双光章(4月)
- 柳沢 政 安氏(高3)
- 厚生労働大臣、佐久市長感謝状(12月)
- 渡辺 かず子氏(高4回)
- 第59回佐久美術展佐久美術展賞(5月)
- 美齊津 経 夫氏(高6回)
- 佐久市長表彰 技能功労(11月)
- 石塚 一 義氏(高7回)
- 従五位瑞宝雙光章受賞(元公安調査室山梨所長)(8月)
- 竹内 伸 行氏(高8回)(7月逝去)
- 瑞宝単光章受賞(元農林水産技官)(11月)
- 町田 守 男氏(高8回)
- 第18回佐久平の美術展市長賞受賞
- 小野沢 信 子氏(高8回)
- 長野県知事表彰(11月)
- 岡村 猛氏(高17回)
- 第57回長野県展工芸の部JA長野中央会賞(8回)
- 鈴木 順 子氏(高33回)
- 地方選挙当選議員
- 佐久市議会議員(一期)
- 中 條 寿 一氏(高14回)
- 小林 貴 幸氏(高44回)
- 佐久穂町議会議員(二期)
- 岡部 学氏(高20回)

同窓会ニュース

岩高同窓生「慶事・表彰」一覧

ご慶事誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

(前号発行後事務局にお知らせのあった方)

- 長野県知事表彰(4月)
- 小平 初 郎氏(旧中6回)
- 日本商工会議所会頭感謝状(3月)
- 浅沼 勉氏(旧中14回)
- 第19回佐久平の美術展奨励賞(2月)
- 第59回佐久美術展佐久広域連合賞(5月)
- 星野 節 子氏(女37回)
- 長野県小諸警察署長表彰(5月)
- 井上 文 雄氏(旧中21回)
- 佐久市長表彰 技能功労(一級建築士)(11月)
- 小澤 昭 雄氏(旧中21回)
- 社団法人全国社会教育委員連合会長表彰(10月)
- 長野県スポーツ少年団 創立40周年記念本部長表彰(11月)
- 柳澤 仁氏(高1回)
- 旭日小綬章(4月)
- 香坂 勝氏(旧中22回)
- 旭日双光章(4月)
- 柳沢 政 安氏(高3)
- 社会福祉協議会長表彰(11月)
- 厚生労働大臣、佐久市長感謝状(12月)
- 渡辺 かず子氏(高4回)
- 第59回佐久美術展佐久美術展賞(5月)
- 美齊津 経 夫氏(高6回)
- 佐久市長表彰 技能功労(11月)
- 石塚 一 義氏(高7回)
- 従五位瑞宝雙光章受賞(元公安調査室山梨所長)(8月)
- 竹内 伸 行氏(高8回)(7月逝去)
- 瑞宝単光章受賞(元農林水産技官)(11月)
- 町田 守 男氏(高8回)
- 第18回佐久平の美術展市長賞受賞
- 小野沢 信 子氏(高8回)
- 長野県知事表彰(11月)
- 岡村 猛氏(高17回)
- 第57回長野県展工芸の部JA長野中央会賞(8回)
- 鈴木 順 子氏(高33回)
- 地方選挙当選議員
- 佐久市議会議員(一期)
- 中 條 寿 一氏(高14回)
- 小林 貴 幸氏(高44回)
- 佐久穂町議会議員(二期)
- 岡部 学氏(高20回)

# 「友在り遠方より来る」 相生会の記

五年制の男子中学「岩中」卒業以来、半世紀余もの回を重ねる「相生会」の集いは、母校創立80周年を寿ぐ昨秋の式典の前日、学舎近くの古里きつての老舗「佐久ホテル」で開かれ、今回は面対見のよい品行方正のT君が幹事長役。

お互い寄る年波と、県外在住者が多いことから、出席者が案じられた。が、友情と母校懐旧の念は断ち難く、28名もの仲間が、後退した頭を光らせ、白髪を老骨にそよがせて、満面の笑みで出席した。

恩師あつてこそ同級会だが、お招きした、かつての漢文と柔道担任の北川先生は、時宗の開基・一遍上人の「踊り念仏」で広く知られる、佐久市郊外の「西方寺」住職。相変らずの大音声で「明日でなく、きょう一日、「今」を生きていることが大切」と、眼光鋭く熱っぽく説法。

生物学の戸塚先生は、戦時中の海外生活、戦後の長野県議時代を回顧し、物静かに語られ共感を与えてくださった。

因みに同先生は、邸宅に近い佐久ホテルの若き篠沢社長（後輩の同窓会員）の媒酌人の由で、思いがけない縁を感じた。

両先生とも、古き良き「岩中」の大先輩であられることを、感慨込めて特筆しておきたいもの。

## われら 岩高八回生

荻原 功

昭和三十一年、まだ日本はこの先どうなることか解らず、大変な就職難の時代での卒業でした。

それから五十年、日本の高度経済成長の一翼を担い夢中になって働き、今年を過ぎてこれから人たる道成し遂げる年になりました。今までに他界された友は十八名、訃報をきくたび一抹の寂しさを感じます。これから社会に尽くしたり、自分のやりたい事ができる時なのに本当に残念です。

高校時代の我々は岩高のルネッサンスの到来だと、先生方にもはやされた事を覚えていきます。確かに我

た恩師を囲んでの同級会は、至福そのもの劇的でさえあると実感した次第。

県内・首都圏はもとより、遠く岐阜・名古屋からの仲間も駆けつけたが、胸を強く揺さぶられたのは、戦中の疎開生で、バスケットの名選手、O君が長い在宅介護の末、愛妻に先立たれ、自らも難病の身で、はるばる神戸から杖に頼り、岩村田入りした誠実な姿だった。が、ホテルの玄関口で待ち侘びていた彼と、私は声もなく、何十年振りかの温かい手を握り締め、再会の肩を抱き合った。

旧中時代の昔、「友あり遠方より来る、亦、楽しからずや」と、漢詩の一節を学んだことが、つい昨日のごとく追想された。

みずすの国の東の浅岳の下に育まれ、で始まる、旧「岩中校歌」を両肩を組

々は一生懸命勉強しました。学力試験でも他校を凌ぐ程の実力があつたものです。

当時の先生方は小林昌次、佐々木次郎、徳田博信、尾崎裕一、半田義雄、小林道徳先生が担任の先生でした。先生方それぞれに特徴があり、楽しい授業だったことが思い出されます。残念ながら、この先生方はすでに他界され寂しい限りですが、同期生は非常に纏まりが良く、毎年の同期会にはいつも六十人以上の友が集まり、お互いの情報交換の場として、なつかしい話が尽きず、一夜を語り明かしておられます。一昨年は教科国語担任の北川先生をお招きし、先生の人生経験を交えた蘊蓄のあるお話でこれからの私達に生きる指針をいただいた。



きました。丁度それが出来る年齢になったのでしようか。母校のランの設置や昨年は岩高八十周年の記念事業には積極的に参加し、どの学年よりも負けない人数と金額で母校に恩返しが出来たことは大変誇りに思っています。

## 絵画の寄贈に当って

信州現展代表・佐久美術会長 美斉津 經 夫

今回、母校に絵画を寄贈展示して頂けることになり、関係の皆様に感謝申し上げます。

自分と絵画とのつながりを考えてみますと、高校時代にまず矢島貞夫先生との出逢いがありました。師は風景画も描いておられましたが、当時佐久地方で唯一人とされる抽象表現を試みておられ、「自由美術展」に出品され、後に会員として活躍されました。（今でも県内会員数名のみという厳しい会にチャレンジされていた訳です。）高校卒業と同時に、師のご助言もあり、上京して武蔵美で学びはじめました。学んだ場所は、当時から生徒・教授陣



(丁生)

## 城戸ヶ丘会より

城戸ヶ丘会会長 清水 千代子

まばゆいばかりの新緑に囲まれ、自然の恵みを満喫し、生活に潤いと活力を与えられて生かされていることに、喜びと感謝に浸って居る今日此の頃でございます。

会員の皆さま、お元気でそれぞれのお立場で活躍のことお喜び申し上げます。卒業し最早六十年と云う長い年月は去って居りますが、私共の学生時代は小学校から戦争と云う、二文字の中に育って参りましたが、今日、今だに平和の社会は見ることが出来ません。世界、国の動きも、思わぬ方向に進みやもすれば、社会の激動に、おし流されて

宙を表現したいとの願望をもってやってきました。前途ある後輩の諸君に、この混迷の時代を真正面から物事に向き合つて、多種多様な分野で挑戦する姿勢を身につけていってほしいと願っております。

絵画題名『兆し-05』  
サイズ  
1420×1800



ともに、新しいものを探索表現しようとする気風にあふれていました。卒業後、家庭の事情で帰郷、長い紆余曲折を経て、まがりなりに今日に至っています。

自分では長い間研鑽を積んできたつもりですが、今だに自己の未熟さ、通俗性を痛感し忸怩たる思いを禁じえません。

しかしながら、常に心の片隅にいつも新しい視点で事象をとらえること、試行錯誤しながらも、自分なりの独自の世界・宇宙

しまいそうな、不安さを感じる此の頃でございます。一人一人が強い信念を持ち、よくなることを信じて頑張る今日此の頃でございます。

## 第35回 岩高同窓生美術展 作品募集 (絵画・彫刻)

日時 7月16日(土) 午前9時～午後9時

7月17日(日) 午前9時～午後4時

会場 佐久市岩村田 浅間会館2階ホール

搬入 7月15日(金) 午後1時より

## みずすの文芸

俳 壇 上原 規子 (岩女35回)

新米を土産に赤子見せにくる  
早春の想ひ出九階レストラン  
浅間連峰まるごと背に春耕す  
青空を小出しに晴るる岩雲雀  
校庭のささくれてゐる終戦日

歌 壇 星野 節子 (岩女37回)

片乳房失くせし友とさり気なく  
背中合わせに旅の湯を浴びる  
一張羅の形見の袖ほどくとき  
明治生まれの父の匂いす  
白鷺の舞い情らなる霞ヶ浦に  
鎮魂歌ながるる予科練のうた  
征きしまま還らざる顔顔たしめて  
SLの汽笛長く尾をひく(戦後60年)  
先を行く人の姿も思い出も  
散るアカシアがかき消してゆく

柳 壇 (時事) 山崎 英夫 (旧中21回)

しなやかに突つ込みとボケ繰り返す  
スレくも扉の外ならいのか  
さんとさま急につけてる腹話術  
加害者を良い人と言うその憎さ  
反対をニヤリと笑う下心

## 岩村田支部 総会のご案内

とき：平成17年6月12日  
場所：佐久市こども未来館

- 第1部 総会 午後5:30～6:30
  - 第2部 ソプラノコンサート 午後6:40～7:30
  - 第3部 懇親会 午後7:45～9:00
- 会場 佐久セントラルホテル  
会費 2,000円



同窓会表彰生徒

☆ソフトテニス班

H16年度全国高等学校総合体育大会出場

井上泰宏(3E) 新津史也(3E)

☆スピードスケート

H14、15年度全国高等学校総合体育大会出場

奥野 唯(3F)

☆ロボコン 第12回全国高等学校

ロボット競技大会出場

(3H) 井出健太 岡部泰典 桜井和幸

細田健二 山口敏宏

○産業教育振興会表彰生徒

☆中央会 関 将成(3F)

☆長野県 森泉拓志(3G)

○関東甲信越地区機械工業教育研究会表彰生徒

新海 淳(3F) 田島 圭(3G)

○関東甲信越地区電気教育研究会表彰生徒

山口考二郎(3H)

○全国工業高等学校校長協会

井出達也(3F) 黒岩正弥(3G)

小林靖人(3G)

○消防試験研究センター長野県支部長

危険物取扱者乙種全類取得者

(3F) 井出達也 関 将成

(3G) 黒岩正弥 佐藤健策 佐藤達也

新海 超 高橋陽祐 田島 圭

土屋啓太 内藤 悟 山浦等則

今秋十月七日(より) 第十回記念浅岳会作品展 小諸高原美術館で開催

浅岳会作品展は今年で十回目を迎えました。これを記念して作品展を十月七日より四日間、小諸高原美術館で開催します。

これもひとえに同窓会本部をはじめ東都岩高会の皆様、および関係者の方々の協力とご支援の賜物と心より感謝しております。

第一回作品展は平成八年



ロボコン in 信州2004

だが、その後会員の幅を美術班OBから同窓生全体に広げ会員は増え、現在では二十名を数えます。会員は、故矢島先生にご指導を賜った者が主で構成されています。また、出品作品のジャンルも油彩画、日本画、水彩画、染色絵画、それから版画、陶器、写真、工芸など多岐にわたっています。会員個人の活躍も目覚しく主なものでは、美齋津当会顧問の現展での現展賞の受賞、伊沢顧問は染色絵画で個展や国際展への出展、川口会員は版画の板院展で注目され、筆者の示現会などが挙げられます。

これを機会に、会員の日ごろ培った成果を地元の皆様にご鑑賞頂きたく、また新たな話題をお届けいたしたく、再び小諸で第十回記念浅岳会作品展を開催する事と致しました。

前回と比べ会員も増え、その技術もいっさら向上しておりますので、必ずや皆様のご期待にお応えできるものと自負しています。

皆様のご協力で、平成十三年秋には地元の小諸市立高原美術館で記念展を開くこともできました。発足当初の会員はわずか十名でした。

事務局 中澤(高10回)

平成16年度岩村田高等学校同窓会一般会計決算書

収入総額 3,974,027円 支出総額 3,542,804円 差引残額 431,223円

自平成16年4月1日～平成17年3月31日 岩村田高等学校同窓会長 鈴木 公人

平成17年度岩村田高等学校同窓会一般会計予算書(案)

収入総額 4,220,000円 支出総額 4,220,000円 差引残額 0円

自平成17年4月1日～平成18年3月31日 岩村田高等学校同窓会長 鈴木 公人

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 増減, 摘要. It details the financial results for the 16th year, including income from membership and expenses for various activities.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 前年度対比, 摘要. It details the budget for the 17th year, comparing it to the previous year's budget.

※尚、予算に過不足が生じた場合、正副会長協議の上、一任させていただきます。

購入予約募集中

岩高八十年誌

【購入申込募集要項】

- List of purchase details including: 仕様 (A4判, 縦二段組), 装幀 (総クロス張, 表紙・背金箔押し文字), 頒布価格 (二,五〇〇円), 発行部数 (一,〇〇〇部), 申込先 (長野県佐久市岩村田一四八), 申込方法 (郵便振替にて), 申込締切日 (平成十七年九月三十日迄).

「岩高八十年誌」目次概要

- Table of contents for the 80th anniversary magazine, listing chapters from 1 to 7 and their sub-topics, such as '岩村田高等学校の教育' and '創立六十周年記念事業'.

### 御礼のご挨拶

謹啓 佐久の自然は、日々盛夏への装いを整えつつあります。昨今、益々御清祥の御事をお慶び申し上げます。

この度の長野県岩村田高等学校創立八十周年記念の諸事業に對しましては種々御高配をお寄せくださり、ご尽力、ご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

お蔭様で諸々の計画も順調に進行し、只今は記念誌の発刊事業を残すのみとなり、該当委員会を中心に鋭意努力中であります。

今後、整備された教育環境のもと皆様のご期待に込めて、一層充実した学校生活を送れるよう心がけて参りたいと存じております。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げ御礼のご挨拶といたします。

平成十七年六月一日

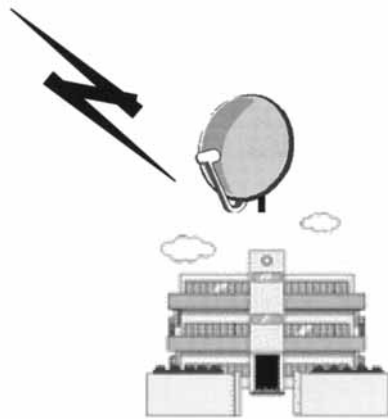
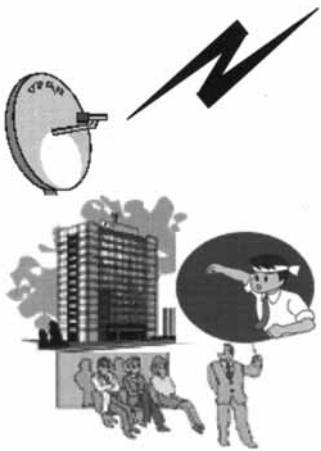
敬具

長野県岩村田高等学校  
創立八十周年記念事業実行委員会

会長 鈴木 公人  
学校長 西澤 興一

## 記念事業の柱、最先端サテライトシステム稼働！

【契約先 ゼミ】



【岩村田高等学校 同窓会館内】

集合型教育用システム



個別自由型教育用システム

(サーバー)



### StreamingManager

岩村田高等学校同窓会

- 動画情報管理
- アップロード
- 基本情報管理
- カテゴリー情報管理
- 動画情報データバックアップ
- 終了

インターネット網

将来的には…

公共施設で…



自宅で



既に現役生徒が有効に活用しています。

### サテライト授業配信システム

通常サテライト授業では、衛星通信を使って契約先ゼミでの授業をリアルタイムに離れた会場で、参加者が一緒に受講します。

参加者は決められた教室で、決められた時間、決められた講義のみの受講しかできませんでした。

この度、導入した『サテライト室コンテンツ配信システム』では、受信した授業内容をコンピュータサーバー（パソコン）内に一旦パソコンが解読できる形式に変換し格納させます（エンコード）。パソコン内に取り込まれた授業データに、索引用の名前を付けて配信用サーバー（別のもう1台のパソコン）に授業データと一緒に登録（アップロード）します。

配信用サーバーに格納された授業データは、配信用サーバーとネットワークで接続されている全てのパソコン上から再生（デコード）し

て観ることができるのです。

登録されている授業が一覧形式でパソコン上に表示されます。その中から受講したい授業を選択するだけで、誰でも希望する講義を受講できます。

現時点では、同窓会館内サテライト室内のみのネットワーク接続となっていますが、今後、校内のネットワークに接続すれば、校内のどのパソコンからでもサテライト授業を受講できる環境が可能となります。

また、将来的にはWWWサーバー（インターネット上で動画を配信するためのサーバー）を立ち上げることで、インターネットを介して家庭での学習や地域公民館・図書館・各公共施設など場所を選ばず受講することも可能となるコンピュータシステムとなっています。

